

北陸石仏の会々報

北陸地方の八大龍王

滝本 やすし

八大龍王

八大龍王は、仏法を守護する天竜八部衆(天・龍・夜叉・乾闥婆・阿修羅・迦楼羅・緊那羅・摩呼洛伽)の龍の部に属する八体の龍王である。数多くの經典に登場しており、八体の尊名も様々である。一般的によく知られるのは、法華經序品に記される次の八体の龍王である。

- ① 難陀龍王(ナンダ) 歡喜の意。海洋の主であり、頭上に九匹の龍を冠する。右手に劍を持ち、左手は腰に当てる。
- ② 跋難陀龍王(バツナンダ) 亞歡喜の意。難陀の弟。頭上に七匹の龍を冠する。右手に劍を持ち、左手は空中。
- ③ 沙伽羅龍王(シヤカラ) 天海の意。雨乞いの本尊とされる。
- ④ 和修吉龍王(ワシユキツ) 多頭の意。水中に住む多頭の龍で、「九頭龍王」「九頭龍権現」として知られる。
- ⑤ 德叉迦龍王(トクシヤカ) 多舌、視毒の意。邪眼を持ち、この龍王が怒って人を見るとその人は死ぬといわれる。
- ⑥ 阿那婆達多龍王(アナバダツタ) 無熱の意。ヒマラヤ北部の神話上の池である阿耨達池の中の五柱堂に住むという。
- ⑦ 摩那斯龍王(マナシ) 大身、大意、大力の意。海洋に住む怪力の龍王で、阿修羅が海水で喜見城を攻めた時その海水を戻したという。
- ⑧ 優鉢鉢羅龍王(ウハツラ) 青蓮華の意。青蓮華を生ずる池に住むという。

八大龍王の造形

八大龍王の木像は全国の寺院で見られるが、その数は少ない。繪像としての作例は、釈迦涅槃圖、胎藏界曼荼羅、法華曼荼羅、請雨經曼荼羅などに、難陀龍王をはじめとする一〜三体が描かれている。また題目曼荼羅には「八大龍王」や「大龍王」などの文字が記されているのだが、小さなものでは省略されている場合が多い。

八大龍王の文字を刻んだ石塔は全国各地で見られ、八大龍王が祀られた石祠も全国に点在している。八大龍王の像が彫られた石仏は、准胝觀音の眷屬として難陀と跋難陀の二体が彫られているものをよく見かける。また一体(一尊)で八大龍王とした石仏や、八大龍王のうちの一体のみの造立もいくつか報告されている。しかし八体全ての像が揃っている作例は極めて少ないようだ。茨城県つくば市に昭和戦前のものが、千葉県船橋市には平成二十二年造立のものがみられる。經典には八大龍王の像容がほとんど記されていないので、その造形は様々である。

俱利伽羅八大龍王社

石川県津幡町九折と富山県小矢部市安楽寺の境に天田峠があり、八大龍王社が建てられている。俱利伽羅不動寺の一キロメートルほど北に位置する。建物内には木造の二棟の小祠があり、右の祠には俱利伽羅八大龍王が祀られ、左の祠には宝玉龍神が祀られている。この堂内には八大龍王と書かれた写真が掲示されているので、この像が八大龍王社の御神体のようである。一体(一尊)で八大龍王とした木像で、左手に如意宝珠を、右手に劍を持つ龍の姿が彫

第42号
 平成25年4月10日発行
 編集と発行
北陸石仏の会
 (日本石仏協会北陸支部)
 代表 北村市朗
 〒939-1315
 富山県砺波市太田
 1770 尾田武雄方
 電話 0763-32-2772
 振替 00740-2-11974
 (年会費 3000円)



韋駄天 高岡市の宗泉寺

られている。また堂内には九折町八大龍王大
神奉賛会による「俱利迦羅奥山田八大龍王大
神御縁起」の額が掲げられており、役の小角(役
行者)が奈良生駒山の二体の龍王大神のうちの
一体を背に担いでこの地に安置したとの言い
伝えが記されている。



長手島の八大龍王堂

石川県羽咋市柴垣町の海岸に長手島と呼
ばれる小さな半島がある。これは沖の小島
が砂洲でつながり、自然の栈橋のようにな
っている。長手島の付け根には七面堂が建
てられており、木造の彩色七面大明神像が
祀られている。さらに奥へと進むと、半島
の先端には八大龍王堂が建てられている。

堂の内部には木造の祠があり、白木造りの八大龍王像が祀られている。一体(一
尊)で八大龍王としたもので、頭上に龍を載せ合掌して立っている。七面大明
神や八大龍王は、春から夏の間は海の安全や大漁を祈願して長手島に祀られ
ているが、秋から冬の間は近くの日蓮宗本成寺の本堂に安置されている。八
大龍王像が本成寺に移されている間は、八大龍王堂の祠には板題目曼荼羅が
祀られている。通常の題目曼荼羅には「八大龍王」や「大龍王」と記されて
いるのだが、この題目曼荼羅には難陀龍王から優鉢羅龍王までの八大龍王の
名がすべて記されており、朱文字で「海上安全」と「大漁満足」が書き添え
られている。



瓜割の滝

福井県上中町天徳寺の高野山真言宗天徳寺境内に、瓜割の滝という湧水が
ある。養老年間に泰澄大師がこの地を訪れたが、水がなく困っていた。する
と天竺から八大龍王が現れ、岩を割って水を湧き出させたという。この清水
を見下ろす小高い丘に帯状の大きな岩があり、龍王岩と称する。これは八大
龍王が清水を守護している姿であると言われている。

滝の雨請堂

福井県あわら市滝の、集落はずれの小高い山の頂上に雨請堂が建てられて
いる。登り口の案内板に、次のように書かれている。(二部省略)

「この雨請堂は、丸岡城主有馬藩の時代に早魃で稲が枯れそうになったの
で、滝をはじめ近村の百姓が、この山を雨請山と称えて青柴の千把焚きをし
て煙をあげ、太鼓を打ち鳴らして龍王の眠りを目覚まし、神職と共に祈り
をしたところ、三日目に小雨があり、七日目に大雨が降って、その年は大豊
作になった。それからこの山を雨請山と称して八大龍王を祀り、六月十七日
を祭日としている。」

雨請堂は三間四方の木造で、内部には石造の雨請の神様が祀られている。
中央に不動三尊が祀られ、その左右に八大龍王を配している。不動三尊は一
石一尊の浮彫りであり、八大龍王は四基の石板にそれぞれ二尊ずつが浮彫り
されている。また、堂内の右端に不動明王像が立てかけられているのだが、
昭和二十三年の福井地震で倒壊したのであろうか、台座や光背などが大きく
破損している。現在中央に建てられている不動明王は、この像を新しく作り
なおされたものである。これらの石材は、いずれも福井市で産出される笏谷
石(緑色凝灰岩)である。像高は不動明王が約八十五センチメートル、不動の両
脇侍が約六十センチメートル、八大龍王が約三十五センチメートルである。
八大龍王は小型の像であるが、極めて細密に彫られており、石工の技量の高
さがうかがえる。朱と墨の二色で彩色されているのだが、長い年月で色あせ
ている。

八大龍王は向かって右から、①沙伽羅龍王、②和修吉龍王、③摩那斯龍王、④優鉢羅龍王、⑤徳又迦龍王、⑥阿那婆達多龍王、⑦難陀龍王、⑧跋難陀龍王の順に並べられている。これらの並び順は特に意識されていないのであるうか、堂再建の時に並べる順番が変わったのかもしれない。それぞれの像容は次のとおりである。

①沙伽羅龍王 焰髮。宝冠。背後から頭上に龍。左手に鼓を、右手に棒を持つ。右足を上げて波の上に立つ。

②和修吉龍王 焰髮。宝冠。背後から左肩上に龍。両手を前で組み、波の上に立つ。

③摩那斯龍王 焰髮。宝冠。憤怒相。左手で宝珠を高く掲げ、右腕で薪を担ぐ。右足を上げ、波の上の龍を踏みつけて立つ。

④優鉢羅龍王 宝冠。背後から頭上に龍。胸上に置いた左手で青蓮華を持ち、波の上に立つ。

⑤徳又迦龍王 焰髮。宝冠。背後から頭上に龍。口から気を吐き、波の上に立つ。

⑥阿那婆達多龍王 宝冠。背後から頭上に龍。左手で五重塔を持ち、それを右手で支える。波の上に浮かべた蓮片に立つ。

⑦難陀龍王 宝冠。顎髭。背後から頭上に龍。両手で宝盆を持ち、波の上に立つ。

⑧跋難陀龍王 宝冠。背後から頭上に龍。両手で三弁宝珠(火焰宝珠)を持ち、波の上に立つ。

沙伽羅龍王が鼓と棒を持っており、摩那斯龍王が薪を担いでいるのは、雨乞いの時に太鼓を打ち鳴らして薪を焚くからであろうか。本来は人々が雨乞いを行い、龍王の目を覚まさせるのであるが、ここでは龍王にそれらを持たせている。優鉢羅龍王は青蓮華を生ずる池に住むということ、青蓮華を手持っている。阿那婆達多龍王の中の五柱堂に住む阿那婆達多龍王は、五柱堂ではなく五重塔を持っている。また難陀龍王は両手で宝盆を持っているのだが、その上には何が載せられているのかわからない。

八大龍王が彫られた四基の石板の前面に「奉造立／八大龍王五穀成就氏子安全所」と刻まれ、裏面には「越前坂井郡灌村／惣氏子中／敬白／享保十二丁未年／仲秋吉日」と石屋(石工)二名と施主等の人名が刻まれている。八大龍王が彫られた四基の石板は、いずれもほぼ同じ銘文である。また不動の脇侍の裏面にも同じく享保十二年の銘があるので、これらの石像は同時に作られたものである。

堂の内壁に「昭和拾四年／八月貳拾參日午后／雨乞初め當邑」の墨書きがあるので、その時に堂が再建されたものと思われる。



阿那婆達多龍王 徳又迦龍王



優鉢羅龍王 摩那斯龍王



跋難陀龍王 難陀龍王



和修吉龍王 娑羯羅龍王

富山市中野来迎寺の「秘鍵大師」

平井 一雄

富山市大田口通、日枝神社(山王さん)の南側に真言宗「中野来迎寺」がある。正面にある由来案内板の内容を紹介する。

「真言宗福畠山来迎寺」

「富山市内に、来迎寺が三ヶ寺ある。梅沢町の布市来迎寺に、目付来迎寺と、この中野来迎寺である。初め立山の麓にあったが、呉羽地区小竹に移り、北代の極楽寺と結ばれていた。その後、富山の町づくりをした初代の藩主前田利次に招かれて、この地に移った。寺には富山市指定の文化財が四つもある。ともに北代の極楽寺から移ったものである」

この寺に隣接して小規模な墓地がある。富山空襲に会ったと思うが墓石はあまり損傷していない。又、改修もされていないらしく、古い墓石が乱立している。寛永五年、元禄十五年、宝永などの銘がある墓石もあるし、一メートルを越す宝篋印塔の上部「九輪」もあり興味深い石造物の宝庫である。其の中の一つ、三界万霊と刻まれた台座の上に鎮座している五輪塔授持の弥勒菩薩に惹かれて、墓域を散策していると、ちょうどこの五輪塔授持の裏側に写真の「秘鍵大師」石像があった。自然石を彫りくぼめ、利剣をもった大師像を浮彫、右手に利剣を持ち、顔を少し右に向けている。

像高約一メートル。銘文はない。「光明真言」が円形に刻まれているが剥脱の部分が多い。富山県の「秘鍵大師」石像は今まで報告がなく、これまで尾田武雄さんと立山町岩峠寺石造物の調査中に三体の「秘鍵大師」石像を確認したのみである。ネットで資料を漁った。「秘鍵大師と呼ばれるお大師(弘法大師)の像がある。お姿は剣をお持ちになったお姿です。お大師さまが「般若心経」を解説された「般若心経秘鍵」のなかで「文殊の利剣は諸戯を断つ、覚母の梵文は調御の師なりチクマンの真言を種子と為す、諸経を含蔵せる陀羅尼なり」と述べられています。文殊の利剣とは、文殊菩薩さまがお持ちのなっている剣のことで、諸戯というのは為にならない言論や判断のことです。チ

クは般若菩薩さまのこと、マンとは文殊菩薩さまのことです。嵯峨天皇の御世に、飢饉と疫病で国民が苦しんだおり、お大師様は天皇へ般若心経の写経を勧め、自らは修法し講読されました。「般若心経秘鍵」はその解説書ともいべきものです。

秘鍵大師のお姿は、お大師さまが文殊の利剣をお持ちになったお姿です。利剣は利生(りしよう)のことで、お大師さまが文殊菩薩の三昧耶に入り、文殊菩薩となつて衆生を利益する誓願の象徴的なあらわれなのです。「秘鍵大師」像(弘法大師が剣を持っている姿)日本国内でも珍しいお大師さまのお姿です」と解説されていた。

京田良志先生の『続石の表情』「弘法小屋跡の弘法像」に「…小屋はななく、むなしく弘法清水だけが沸く、今ひとつ、自動車道脇に移されてこの童顔の弘法像が一体あった。剣を持った珍しい像である」との記述があり、写真を見ると正面を向く端正な童顔の大師像で右手に利剣を持つておられる。この石像も秘鍵大師ではなかるうか。



秘鍵大師座像



宝篋印塔部分「九輪」



五輪塔授持弥勒菩薩



『続石の表情』より

『庄川町の石碑』発刊される

尾田 武雄

庄川町婦人ボランティア「たんぼグループ」の皆さんが八年をかけ、平成二十四年十二月に『庄川の石碑』を二百部発刊された。同会と一緒に、石仏調査に関わってもらう十五、六年になるだろう。庄川町青島から砺波市太田に通じる三十三カ所観音石仏を調査報告した『中筋往来の三十三カ所観音』（平成十一年発刊）は、石仏を単なる「物」をとらえるのではなく、信仰の対象物として取り組まれたことが大きい評価を受けられたことは周知のとおりであります。

その後、庄川町が砺波市に合併する直前に上梓されたのが『庄川町 石仏とこころ』（平成十六年発刊）であります。これは石仏のふるさと、またその宝庫である庄川町の石仏を悉皆調査され、前著と同じ石仏に愛情を持って記述された好著であります。

そして今回、庄川町の石碑悉皆調査に取り組み、その報告書が発刊されました。総数が二百十九基あり、金屋石の里であるだけにその数の多さに驚いています。また庄川町金屋庄川小学校グラウンド横にある「護国英霊碑」は、その大きさに圧倒されます。これも金屋石工の粋を結集したものと思われれます。また戦没者の慰霊碑が七十三基と非常に多いものこの地方の特徴と思われれます。そのほか歌人西行法師の友西住の碑や、五ヶ種稲生産に尽力された寺井平右門碑、牛嶽車道開通記念碑、山田文作忠魂碑、勸学職師乃碑、また「徳不孤」と彫られた寺子屋の師の碑など特徴的なものも多く見受けられます。

慰霊碑の多くは日露戦争に従軍した貴重な記録であり、今後の研究が期待される。



第45回例会 射水市小杉町の蓮王寺にて 平成24年10月14日



北陸石仏の会 第46回例会
— 俱利伽羅峠と周辺の石仏めぐり —
 平成25年5月12日(日)

参加費：5000円（バス・資料代）

集合場所：①大沢野文化会館 7時00分

②JR砺波駅南口 7時40分

③JR金沢駅西口 8時30分

④JR津幡駅 9時10分

申込方法：次の事項を記入の上、ハガキでご連絡ください。

住所、氏名、電話番号(携帯電話も)、集合場所

申込先：〒939-1315 砺波市太田1770 尾田武雄方 北陸石仏の会事務局

締め切り：平成25年5月2日(木)

案内：滝本やすし(金沢市)

◎津幡町竹橋 有聲寺／馬頭観音、水天、徳本名号塔、義賢名号塔

◎津幡町山森 白山神社／菩薩像、女神像、不動明王

◎津幡町俱利伽羅 路傍／六地藏、虚空蔵菩薩

◎津幡町俱利伽羅 手向神社／手向神社石殿、一石五輪塔、狛犬

◎津幡町俱利伽羅 国見山頂／四社権現石殿

◎津幡町俱利伽羅 不動寺／不動明王、地藏、白山権現

◎津幡町俱利伽羅 長楽寺墓地／長楽寺歴代墓標

◎小矢部市埴生 山王社跡／大山咋命

◎小矢部市埴生 医王院／阿弥陀、六地藏、観音、不動明王

◎小矢部市道林寺 南家／宝篋印塔

◎小矢部市道林寺 路傍／半跏地藏、六地藏

◎小矢部市松永 路傍／観音

◎小矢部市松尾 路傍／蔵王権現

諸事情により見学先を変更する場合があります。ご了承ください。



虚空蔵菩薩



阿弥陀如来



不動明王



一石五輪塔



四社権現石殿

平成25年度の会費を、同封の振替用紙にて納めてください。年会費は3000円です。